



メタボ・糖尿病・喫煙対策
の具体的実践を中部地区医師
会でやっていきたい。



中部地区医師会長
安里 哲好 先生

P R O F I L E

Q1. 中部地区医師会長就任おめでとうございます。会長に就任されてのご感想と今後の抱負をお聞かせいただけますでしょうか。

私は久米島で生まれ、母の病気の療養もかねて、生後6ヶ月で沖縄市諸見里に移り住み、その後大学に行くまで20年間、そこで過ごしました。昭和59年3月に帰省後、琉大病院とハートライフ病院で仕事をしていて、中部地区の南の端にありますが、十分に恩返しができていないといつも感じていました。この度、56年の歴史がある中部地区医師会の会長になったことを光栄に思います。微力ですが、歴代の会長や会員が培ってきた医師会をちょっとでも良いから発展させていきたいと思っています。

抱負としましては、1) 47万人の地域住民と共に行動する医師会づくり 2) 会員にとって魅力ある医師会づくり 3) 看護学校の看護教育の充実と向上をめざし、そのための健全経営 4) メタボ・糖尿病・喫煙対策の具体的実践を掲げています。実際に医師会を運営して、学校医・学校検診、予防接種等も重要な課題であることを強く感じています。地区医師会の運営は初めてですので、理事や会員の意見を聞き、会務運営を進めていきたいと思っています。

Q2. 中部地区の保健医療について

中部地区の医療は充実していると思います。

- 昭和52年3月 山口大学医学部卒業
- 昭和52年4月 東京女子医大研修、麻酔科・集中治療部助手
- 昭和55年4月 国立東京第二病院（現国立東京医療センター）循環器科
- 昭和59年3月 琉球大学医学部附属病院地域医療部助手・講師
- 昭和63年12月 ハートライフ病院勤務
- 平成3年9月 同上副院長
- 平成11年2月 同上理事長
- 平成12年3月 同上院長兼務（平成19年3月まで）
- 平成16年6月 琉球大学医学部臨床教授（平成19年5月まで）

学会

- 日本内科学会 指導医
- 日本循環器学会 専門医
- 日本透析医学会 専門医
- 日本医療マネジメント学会

歴史的にも、今日においても質の高い医療（救急医療も含め）の提供と若き医師の教育を担ってきた県立中部病院を中心とし、各研修指定病院での合同カンファレンス、メディカル・コントロール協議会での活動、医師会・保健所との協力の下で、糖尿病の標準的治療の勉強会も積

極的です。医療連携も比較的スムーズに行われていると思います。

今後の課題として、県立中部病院が経営的にも安定し、今の医療の質を維持・向上させること、3疾病（脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）の統一した連携パスが患者さんを中心に運用できること、更に肥満・メタボ・喫煙対策等の予防活動も大切と考えています。国家的課題ですが、地域から、広域基地災害対策は頭が痛いですね。

診療所の先生がちょっと忙しい感じがします。中部地区は10万人あたりの診療所数が少ないのもその一つでしょうが（保健医療計画より）。

Q3. 就任して短期間ですが、印象やお困りになったことは

理事会は理事者13名、月に2回の理事会ですが、中部地区医師会の会員は529名、職員は120名で、事務局の協力の下に管理・運営がなされていることを強く感じています。当惑したことは就任直後に、看護学校の借入金6億円の個人保証でした。10月から個人保証を外し、20年間の長期支払いにしました。看護学校外構工事・植栽の入札（本会の希望価格にどうもって行くか）時にも神経を使いました。

次に、政治活動ですね。慣れないもので、先の県議会議員選挙では、医師連盟中部支部の各執行委員の意見を聞き、8人の県議立候補と3時間かけて面談しました。協定書の趣旨説明、立候補者の政策・志を聞き、推薦状、為書き、支援金等、初めての経験でしたので大きなストレスでした。後日、国会議員と県議に日本の医療の問題・沖縄の医療の問題についてミニ・レクチャーをしたり、ゴルフをしたりして、意見交換をしています。ただ、未だ、政治家と一緒の時は緊張します。11月の衆議院選挙は、始まりも結果も心配ですね。

Q4. 今回、地区医師会長と県医師会常任理事を兼務されておりますが、その点特にご苦労なされていることがありますか。

なぜか、昨年度のほうが忙しかった感じがしま

す。日医師涯教育における中央での発表、全国勤務医協議会の沖縄開催のマネジメント、沖縄県保健医療計画の委員長、出来たばかりの日医がん対策委員会、女性医師部会の立ち上げへの関わり、会長講演（医師卒後研修における医師会の関わり）の準備、県外出張、各種委員会や福祉保健部との協議会の取りまとめ、特定健診・保健指導の関わり、その他報告・印象記等と、ずーっと走りつづけて来ました。今年度は、県医師会の配慮をいただき、業務の範囲が小さくなりましたが、9月頃より段々増えてきて、県医師会と中部地区医師会にかける電話をいつも間違えています。

中部地区医師会長は多忙さより、むしろ責任の重みですね。中部地区医師会は、会長が決め、誰も文句を言わないよと言われてましたが、各理事が置かれている立場を踏まえて各々の意見を主張し、結局はまとめ役かと思うと同時に、理事会の課題一つ一つに目を配って、その後どうなったのか確認の必要があり、権限より責任ですね。県医師会と中部地区医師会との考えが一致しない時は困惑しますね。中部地区医師会の意見を強く主張しながらも、最終的には県医師会理事会の中で方針が決まる構図になり、相対する考えを内包しながら進んでいます。

Q5. 座右の銘、ご趣味などがあればお教え願います。

座右の銘と言うよりは、好きな言葉は「人生は冒険」です。キャプテン・クックの「航海は未知なるものへの探検・冒険だ」では無いが、人生は小さな冒険の積み重ねと言う感じがします。趣味は5～10年毎に変わっていきませんが、今は読書です。数年前に、突然、右足の親指が赤く腫れて痛くなり、動けなくなり、どこにも行けなかった時から、本を読む習慣がつかしました。本の中に、他人が10何年間で経験した幾多のことが、数時間で疑似体験が出来ます。読書は小さな、そして大きな冒険ですね。

インタビューアー：広報委員 比嘉 靖